



市長と

車座トーク

第31回 山野学区 (概要)



開催日時 2017年(平成29年)8月21日(月)

19:30~20:40

開催場所 山野公民館

参加者数 14人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・十把一絡げの施策ではなくて、地域の特性を活かし、過疎地のことを考えた施策を行って欲しい。
- ・福山市のベッドタウンとして過疎地に若者が住めるよう、菜園付きの一戸建て市営住宅の建設や、空家への改築費用の補助等、過疎や地域の特性を活かした施策を行って欲しい。
- ・荒廃している農地、山林への施策として、里山里地への支援を引き続きしてもらいたい。
- ・猿、猪、鹿、熊等の有害鳥獣の駆除を、期間を定めず年中駆除できるようにして欲しい。
- ・川鶺が川の中の鮎や魚を多く食べるので、駆除をお願いしたい。
- ・ラジオでRCC、NHKが受信できるようにして欲しい。特に夜間には聞こえない。
- ・現在、各課がバラバラに行っている施策をまとめて横の連携を図る「里山里地再生プロジェクトチーム」をつくり、里山の再生を図って欲しい。
- ・地域おこし協力隊員に山野に住んでもらい、常駐、専属で第六次産業等の推進を図って欲しい。
- ・「キラリやまの」は、平成18年8月にJAの店舗がなくなったため、JA女性部が運営している。

人口が減少し利用者が少なく存続が危ぶまれている。山の駅（サンステーション）等の開設をお願いしたい。

- ・医療の保障として、市民病院から毎週火曜日に山野プラザ、毎週木曜日に田原診療所が開いている。何れも薬をもらう程度で、診察は特に無い。プラザの診療は月4回が3回に。田原診療所は月4回が2回となり、新しい患者の受け入れもないので、正規の診療を望む。
- ・北辰バスは乗り手が増えない。バスがなくなると過疎に拍車がかかるので継続してもらいたい。
- ・市道 高尾一池尻線については、少しずつ前に進んでいるが、池尻橋より大正までは、狭く離合が出来ないところがある。買収段階に入っている県道の絡みもあり、早期の完成をお願いしたい。
- ・山野には、土木常設員が4人おり、今までは各自それぞれがお願いしてきたが、今後は4人で十分話し、町内会連合会とも相談して優先順位を決め、支所をお願いなり、陳情に行くことにする。
- ・主要道路は、雑草や支障木の伐採をしてもらっているが、町内の小さいところは高齢化も進み、小さな枝を切るのも難しくなっている。細々したところにも目を配ってもらいたい。
- ・「ふくやま未来づくりビジョン」では行政情報等の発信として、観光アプリやSNS、フェイスブックを活用した戦略的なプロモーションをしていくとあった。公衆無線ランのWi-Fi等の環境の整備を含め、以前から山野で実現したいと思っていた内容と共通点が多くあった。光ケーブルに接続できない町には帰れないという若者もあり、山野に早く通して欲しい。
- ・西学区のホームページのように、山野町の名所などを詳しく紹介したいと思っている。市のHPに、各学区のまちづくり推進委員会や各町内会のサイトをまとめて掲載してはどうか。
- ・無料Wi-Fiが公民館、プラザ、山野キャンプ場等の公共施設で使えるようにして欲しい。
- ・山野小・中学校は統廃合の対象となっており、学校がなくなれば、地域では子育てができなくなる。次の世代を育てられないような地域は存続することはなく、山野は最終的には無くなるのではないかと心配している。廃校の利活用などということは一切考えていない。
- ・小規模校では、社会性やコミュニケーション能力が育たないと云われているが、一般的な意味での社会性やコミュニケーション能力は、小規模校の方が育つことは分かっている。山野小中学校では、町なかの学校に馴染めず、いじめ等で大規模校から転校してきた子どもたちの受け皿にもなっており、適正規模校も小規模校も両輪のようにどちらも必要。大規模校の問題解決のため、山野小中学校を小中一貫の小規模特認校として認めて欲しい。
- ・最初に統廃合ありきで他の選択肢を認めないのは、合理化でしかないように見える。平成27年の文科省の手引きには、小規模校を存続させる方法が載っており、さらに少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業で、小規模校を存続させる場合の教育環境の充実事例を募集しており、文科省は小規模校を残すことも有りだと言っている。
- ・福山市内どこも一律に12学級～18学級という適正規模を当てはめていけば、周辺の過疎地域がどのようになるかは容易に想像でき、市の北部と南部には学校はなくなり、やがて人が住まなくなる地域が拡大する。それを食い止めるためにも、一度立ち止まって考えて欲しい。
- ・町なかには、隣の学校まで1km以内という学校がある。そこは、学校が無くなっても疲弊することのない地域。このような学校を再編するほうが理に適っている。
- ・子どもがいなくなったら廃校にするという従来の考え方や常識では地域は生き残れない。地域を存続させるために学校を残すという方針に転換してもらいたい。子どもの教育と地域の持続可能な暮らし、

この2点が矛盾しない解決方法を探すため、議論できる場を用意してもらいたい。

- ・山野小中学校の統廃合の相手はマンモス校に近い。少ないところを無くし大きい方へ移すのではなく、大きい方から少ない方へ移せば、多人数でないといけない教育内容はクリアできる。
- ・市教委の説明が不十分だから、私たちの理解が出来ていないという発想は違う。どうして山野小中学校が統廃合の対象になっているのかを市教委に聞いても「12学級～18学級で決めた。」と繰り返すだけだった。これでは話に乗ってくれと言われても話にならない。説明不足という問題ではない。
- ・教育委員会が一方向的に「こうですから」と言って決めていくのではなく、地域の人を含んだ総合教育会議などを再度開いて、じっくり話し合う場を持って欲しい。

〈市長のまとめ〉

- ・地域の条件が違うところで同じことをすれば助成、補助金が出るというのは、地域に寄り添った支援策のあり方とは違う。様々な支援策があるが、何れも地域の実情に合った柔軟な支援となるよう工夫しており、先ほどのご意見と同じ方向を向いていると思う。
- ・菜園付き住宅は、市営住宅ではなく、移住・定住対策の住処として考えたほうが良いのではないかと。広瀬学区では、皆さんで草刈りをして業者委託した費用に見合うものを市からもらい、空家の修理、家賃補助の財源にして移住者を迎えている。工夫をすれば家庭菜園付きの戸建て住宅へ移住者を呼び込むことが可能ではないかと。知恵を出しながら一緒に考えていきたい。
- ・指定が解除された里山里地の支援事業は、事業の一部でも対応できないか知恵を出していく。
- ・猪は大きな問題だ。狩猟は期間が限定されているが、駆除は通年できる。支所で相談に乗らせていただくので、効果的な駆除のやり方を考えてもらいたい。
- ・川鶉の話は、あまり聞いたことがなかった。何羽位いるのか、被害の実態はどうかをよく勉強させていただきたい。駆除の制度はあるが、それで十分かどうかを議論させていただきたい。
- ・山野はRCC、NHKラジオを受信できる区域とされているが、夜間の実態も見てもらうよう伝える。
- ・里山里地再生プロジェクトチームについては、是非庁内に作ってみたい。地域のコミュニティをどう維持していくのか問題意識を持っており、里山里地に焦点を絞った検討もしていきたい。
- ・地域おこし協力隊を2名追加募集している。来た場合は一人を北部の担当にする。山野への専従は、他の希望もあり難しいが、北部で協力しながら隊員の能力を山野にできるだけ持ってきてもらうようにしようと思う。山野への居住については分かった。家賃の補助も皆さんの努力でできたらと思う。地域おこし協力隊が山野にしっかりと目を向けるようやってみよう。
- ・キラリやまのは、これまでJA女性部の方に良くやっていただいた。熊野で地域が協力した物販施設の維持が行われている。どういった工夫がされているのか北部支所からお伝えをする。施設を市が構えるか、支援をしながら構えるのか、私は、移動販売で必要なものを地域に届ける方が合理的と思う。やり方には色々あるので、早めに皆さんと一緒に勉強したいと思う。
- ・診療回数の減少とか、診療が行われていないことは初めて聞いた。事実なら、市民病院に改善を促したい。薬だけ渡して診療しないのはいけない。どういう経緯で減ってきたのかは確認する。医者には終了時間まで居てもらい何が起きても対応できるよう安心を確保したい。
- ・バスのことは、市から説明があると思うが、皆さんの利用があれば再度、路線維持も考える。事業者利用客がないのに路線だけ維持しろとは言いにくい。皆さんが利用できるか確認し、増えないので

あれば諦めざるを得ない。その後は、基本的には乗り合いタクシーとなる。

- ・高尾 - 池尻線は、52%の進捗となっている。道路のことだから時間はかかるが、着実に進んでいる。
- ・土木常設員の皆さんが話し合って優先順位を整理いただければありがたい。緊急性の高いところから対応していくことは、地域にとっても良いことだと思う。
- ・道路周辺の雑草や雑木の伐採には、市と地域に役割分担があるが、人口減少、高齢化により、地域の手が回らないのが実態だと思う。地域の力だけで不可能ならば、早めに教えていただければ、市が管理の一環として出向く際に、ついでに対応ができるようにしたいと思う。
- ・今は、光ケーブルを引くという時代を超えていると思う。事業者も今から多額の投資をして引くということはしないので、今後は、情報過疎にならないような議論になっていくと思われる。事業者は3社あるが、スマホ対応になっているはずだ。
- ・情報発信は、西学区のホームページが参考になるということで我々も勉強させてもらう。
- ・地域や保護者の皆さんの学校への思い、子どもへの思い。様々な立場で、様々な思いがある。そうした思いを広く聞かなければと思う。
- ・学校が無いと地域で子育てができなくなるとは思っていません。地域に子育てをする魅力がどれだけ有るかということだと思う。
- ・人口減少、高齢化の進展という中であって、今までと同じ状況が維持できれば、今までと同じように地域が元気を維持できるかといえばそうではないと思う。今までと違ったやり方を考えていかないと、地域の新しい活力の作り方は見えてこないと思う。
- ・廃校の利活用は考えないと言われた。今は、そういう心境にならないということだと思う。ただ全国では500校近い廃校があり、7～8割が学校以外の用途に転用されている事実がある。役割を終えた学校を利活用し地域活性化の核とする取り組みが全国で始まっているということも合わせて考えていかなくてはいけない。
- ・いろいろな思いを持っておられる中で、教育委員会の説明の仕方が不十分であれば、もう少し議論させて欲しいというのが私の思い。じっくりと話をする場を一度、持たせてください。

〈地域からのあいさつ〉

山野は、過疎・高齢化のなか、物事に対して極めて消極的になっている。行政にお願いする前に地元がすべきではないかと、良く言われるが、それができないのが高齢化した住民だろうと思う。どうしても行政の力をお借りしたい。少数の者、弱者を切り捨てるというのは誰でも出来ることだが、弱者を守り、みんな平等に生活できるようするのが国であり、地方の行政であると思う。国では地方創生を言いながら、他方では過疎を潰す施策がなされているように思えてならない。山野の住民も福山市の一市民として、市中心部の住民と同じように安心して生活できる行政を期待している。少数になったから学校の統廃合を、住民が少なくなったから市の出先機関等を減らすという安易な考えではなく、周辺部の声なき声を聞き取っていただき、今後の福山市行政に生かしていただきたいと思う。市長は、現場主義を謳われて積極的に動かれていることに私たち山野の住民は、絶大な期待をしている。そういう意味で、本日のお願いを一つでも二つでも実現していただくようお願いしたい。